

【佐野会場】



【田沼会場】



【葛生会場】



成人式を開催

1月12日、佐野・田沼・葛生の3つの会場で、1,029人の新成人が参加し、成人式が開催されました。

華やかな振り袖やスーツに身を包んだ新成人たちは、同級生との久しぶりの再会に笑顔を見せ、成人式に参加すると、新成人としての誓いを新たにしました。

式典の後は各会場で、新成人から募った企画運営委員による抽選会やビンゴ大会などが行われました。

新春かるた会

1月4日、田沼図書館で新春かるた会が開催されました。

集まった子どもたちは、市の名所や歴史などを盛り込んだ「佐野かるた」を使い、元気な声を出しながら札を取り合いました。

かるたが終わると会場にさのまるが登場。子どもたちはさのまるの登場に大喜びでした。さのまる



を主人公にした絵本「さのまるのたいせつなたからもの」が読まれると、さのまると一緒に聞き入っていました。



消防団出初め式



1月5日、消防団出初め式が行われました。

今年から会場を富岡町のとみあさ公園の北側へ移して開催され、幼年消防クラブや少年少女消防クラブ、女性防火クラブの行進後、佐野鳶工業組合による「はしご乗り」が披露され、沿道の観客から大きな拍手と歓声が沸き起こりました。

また、消防団員約700人と消防車両60台が行進し、佐野市の安心安全を守る威風堂々とした姿を披露しました。

空気も乾燥しているため、火災が発生しやすいなっています。くれぐれもお気を付けください。



舞台裏方講座

1月18・19日の2日間、葛生あくとプラザで、(公財)佐野市民文化事業団主催による「舞台裏方講座」が開催されました。

この講座は、高校生以上の方を対象に行われ、コンサートの準備から、リハーサル、本番までを経験できるものです。

参加した22人は、音響と照明の各コースに分かれ、それぞれの講師から華やかな舞台を支える裏方の仕事を教えていただきました。



ステージ本番の際には参加者ひとりひとりが1曲ずつ担当し、参加した皆さんは、担当した曲が滞りなく終わると、ホッとした笑顔を見せていました。

さのまる優勝パレード



12月23日、さのまる優勝パレードが開催されました。

さのまるは、佐野ブランド大使・ダイヤモンド☆ユカイさん、岡部正英市長とオープンカーに乗り込み、佐野厄除け大師を出発。沿道に駆けつけた皆さんに手を振りながら、佐野駅までの約1キロの道のりをパレードしました。

沿道には多くの市民やさのまるのファンが駆けつけ、小旗を振りながらさのまるのグランプリを祝福しました。

さのまるはその後、市内各地へパレードに出発。優勝の報告をするとともに、投票への感謝を込めて、手を振りました。



物(木やぶらんこなど)を振つたり揺すつたりすることを、方言でホロクといたりホーロクといたりします。

「焙烙ほうろくを火の上にツツカケ(掛け)たら、しょつちゅうホロツてネーと、大豆がコビツイチャーカンね(焦げついてしまっからね)」

ホロクを強調するときには、カッポロクまたはオッポロクのように、「カッ」や「オッ」を付けて言い表します。

「その枝をマツト(もつと)カッパロケバ(強く揺すれば)、ズクシガキ(熟柿)がばたばたオッコツテ(落ちて)くるよ」

また、要らないものを力強く投げ捨てることを「ホロキ投げる」といいます。ホロクには「放る」という意味があり、同じ意味を持つ他の語と結びついて意味をよりいっそう強めます。

「振り動かす」にはフルクという方言もあります。このフルクには「振るう」という意味があり、ふるい篩に掛けて豆や粒状のものをその大きさに選り分けるときに使います。

「昔、きな粉は煎いった大豆をエスス(石臼)ですりつぶし、それを篩ふるいでフルツて、だいぶ手間かけてコセタ(作った)ンだつてガネ」

ホロクやフルクは昔から各地で使われていました。今でも中高年者からこれらのお話を耳にすることがあります。

(市民記者 森下喜一)



ホロクもフルクも 振り動かす意

